

「夢ある未来」の実現へ

クリモトグループは2030年のありたい姿「未来よし」からバックキャストし、2024年現在の様々な社会課題を解決する「価値創造循環モデル」を設定し事業活動を通じて、「夢ある未来」の実現を目指していきます。

2030
——— ありたい姿 ———

未来よし。

クリモトでは、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」に、「未来もよし」を加えた「四方よし」の精神で、将来にわたって社会へ貢献できる企業グループを目指します。

社是

一、技術並に経営の革新に努める

われらは 時代の進展に応じ あらゆる職務分野において
独創的改善に努め強くたくましく生長しよう

二、英知を育て 衆知を集める

われらは 自己を啓発すると共に より優れた英知を育て
これを総合的に活用し企業繁栄の源泉を豊かにしよう

三、有効性に徹する

われらは よき企業成果を上げるため 人 設備
資材の効率的運用をはかり仕事のムダ ムリ ムラをなくしよう

われらはこの基本的理念に従い栗本人としての親和を深め
企業の発展を通じて われらの福祉向上と 人類の幸福に貢献しよう

企業理念

- 一. 私達は水と大気と生命（いのち）の惑星、
地球を大切にし、
人間社会のライフラインを守ります。
- 二. 私達は「安心」という価値を提供し、
社会と顧客の信頼に応えます。
- 三. 私達は顧客の声をよく聴き、顧客から学び、
独自の技術を深め、新しい技術を加え、
顧客にオリジナルな「最適システム」を提案します。
- 四. 私達はモノづくりを通して、
社員の幸せと人間社会の幸せを目指します。
- 五. 私達はこれらの実践のため、
コンプライアンス経営を徹底し、
継承と変革の調和を計り、個性と創意を尊重し、
企業の発展と社会への貢献に努めます。

経営理念

私たちは、全てのステークホルダーの期待と信頼に応え、
常に最適なシステムを提供し、『夢ある未来』を創造します。

2024 ——— 現在 ——— 社会課題の解決へ

- ・インフラの老朽化
- ・自然災害の増加
- ・気候変動
- ・資源の枯渇
- ・自然破壊
- ・デジタル化の加速

1909
創業

水道の普及で社会課題を解決し 人々の暮らしに貢献



創業者の想い

世の人々にあまねく 衛生的で綺麗な水を 届けたい

創業者 栗本勇之助

栗本勇之助が創業した1909年当時、水道の普及はまだ始まったばかりで、日本の総人口4,850万人のうち水道を利用していたのは195万人(4%)にすぎませんでした。紀野吉鐵工所を設立して水道に将来を託した勇之助は、「水は人間生活に欠かせないものであり、水道産業は将来に膨大な需要を秘めている」と考えました。彼の見立て通り、鉄管の需要は急激に増大し、数年後には日本における給水量は約3倍になります。このようにクリモトの成長発展は、「水を不足なく安全に供給したい」という思いから始まりました。

安心して暮らせる環境づくり、 国づくりのため国産鑄鉄管を製造

栗本勇之助は、水道・ガス事業の将来性にいち早く着目しました。弁護士だった勇之助が、顧問を務めていた紀野吉鑄作所を継承したのも先見の明があったからでしょう。1897(明治30)年頃まで鑄鉄管は多くを輸入に依存していました。1907(明治40年)年頃から国内の製造技術は急速に進歩し、メーカーの数も増えて国産化が進みます。輸出も好調で、鉄管の海外需要も旺盛でした。

海外で発明された遠心力鑄造法を研究し、実用化に導いたのも勇之助の功績です。高級鑄鉄管を開発してヨーロッパへの輸出も実現、飛躍的な進歩を遂げるとともに、着実に競争力を付けていきました。

培われた幅広い技術と高い品質で 社会・産業インフラの発展に貢献

昭和の時代に入り、鑄鉄管事業だけでは将来の企業の発展は期待できないと考えた勇之助は、事業分野の拡大を図りました。1933年に産業機械メーカーの足田鉄工所と提携、後に吸収合併し機械分野に進出、さらに鑄鋼の分野も海軍工廠での実習により、高級鑄物の製造技術を習得し一気に軌道に乗り始めます。そして1939年、バルブを専業とする成瀬鐵工所を買収して泉尾工場とし、鉄管、鑄物で培った顧客の信頼をベースに本格的なバルブメーカーとして生産をスタートさせました。

こうして、戦前には現在のクリモトの原型ができあがったのです。115年の歴史は、モノづくりにかける情熱と技術開発へのたゆまぬ努力の歴史そのものだと言えます。

2024
現在～

「夢あふれる未来」創りにチャレンジ

社会インフラと産業インフラを支え、持続可能な社会を実現

クリモトの歴史はモノづくりの歴史。創業以来115年の歴史を経てもなおモノづくりで未来を創り続け、社会インフラの整備や産業インフラを支える産業設備の革新に心血を注いできました。水・電気・ガスなど、誰もが安心して暮らせる強靱なライフラインを築くことで、日々の生活のみならず、災害時も人々の暮らしを支えています。そして素材や技術で産業の基盤を進化させ、お客様に高品質な製品づくりをサポートすることで、企業価値を高め、永続的に社会の発展に貢献していきます。社会を守り支えるという企業の責務を50年先、100年先も全うしたいとクリモトは考えます。

創業の原点、人々の暮らしを守る「上下水道」

世の人々に水を届けたいという願いから始まった鑄鉄管製造がクリモトの原点です。水はあらゆる生物の命を守る源。現在、飲料水・生活用水の供給、汚水処理、家畜・農作物の生育、防災(消火)といったさまざまな形で生活基盤を支えながら、社会に貢献しています。



モノづくりを支える産業設備

優れた産業設備は、製品の品質や生産性の向上につながるだけでなく、モノづくりへの新たな活力を生み出します。クリモトの産業機械は、多種多様な製品の生産プロセスをサポートし、トータルエンジニアリングで産業界の発展に貢献しています。



生活と事業の活動を支える 「資源・エネルギー・通信」

電力・ガス・石油・石炭・一次素材といったあらゆる資源・エネルギー・通信インフラ分野で搬送、供給、調整、保護などの機能を提供しています。例えば、発電所、資源・エネルギープラント、電力・通信の送電網、砕石場などでクリモトの製品が採用されています。



人々の安全で快適な暮らしを支える 「道路・鉄道・住宅」

鉄道、自動車、船舶といった輸送機器やそのインフラに関わる資材を提供しています。例えば、鉄道用ブレーキディスク、自動車部品の製造機械などがあります。そして、道路や鉄道インフラでは、安全で快適に走行するための資材を供給。住宅では、空調・消音資材で快適な暮らしを提供しています。



クリモトグループの軌跡

1909年～創成期

1934年～成長期

1969年～変革期

1981年～伸展期

2001年～転換期

2016年～挑戦期

クリモトグループの幕開け 水道産業の成長とともに

1909年、創業者・栗本勇之助が合資会社紀野吉鐵工所を大阪市西区(現大正区)新炭屋町に創設し、水道およびガス用鑄鉄管の製造を開始しました。鉄管需要の伸長を追い風に合資会社栗本鐵工所を旗揚げし、高級鑄鉄管の開発に成功して競争力をつけました。

1933年、合資会社栗本足田鐵工所を設立し、機械および鑄鋼部門への進出が始まりました。

機械システム事業スタート 戦乱から戦後の復興へ

株式会社に組織変更するとともに、機械部を新設し、産業機械、製缶、鑄鉄、鑄鋼の製造を開始しました。現在の機械システム事業の始まりです。

1935年には中国に海外第1号のプラントを輸出し、これが大量受注につながりました。以降、関西地域において主力工場を立ち上げていきます。戦後は息つく間もなく水道用鑄鉄管の需要が拡大し、復興のためにまい進しました。

官需と海外受注に全力を注ぎ、 不況下を乗り越える

1969年、クリモトビルを新築し、本社を現在地に移転しました。

1971年には化成品事業がスタートします。新素材のポリコンFRPパイプを開発し、現滋賀工場を建設してFRP製品の本格的な製造を開始しました。オイルショックによる不況で民需は不振ながらも、鉄管、バルブ、橋梁、水門を中心とした官需および海外受注に力を注ぎました。

新分野参入への挑戦と 最新鋭鑄造設備の確保

この頃から、技術開発による新分野参入への挑戦が始まりました。従来の栗本路線にはない製品を開発する“脱鉄化”を目的に開発事業部が設置され、さまざまな新規開発に注力しました。

1987年、新日本パイプ株式会社を合併して堺工場とし、小口径ダクタイル鉄管の製造を開始しました。これは当社における生産性や合理性向上に大きく貢献するものでした。

社会環境の変化に苦闘も、 大規模事業再編で乗り切る

2001年には茨城県古河市に関東エリアの建材製造拠点となる古河工場を新設、2007年にはクリモト創造技術研究所を設立しました。

2008～2010年に赤字事業、子会社を譲渡・撤退し、大規模な事業再編を実施しました。

2009年には会社創立100周年を迎えました。

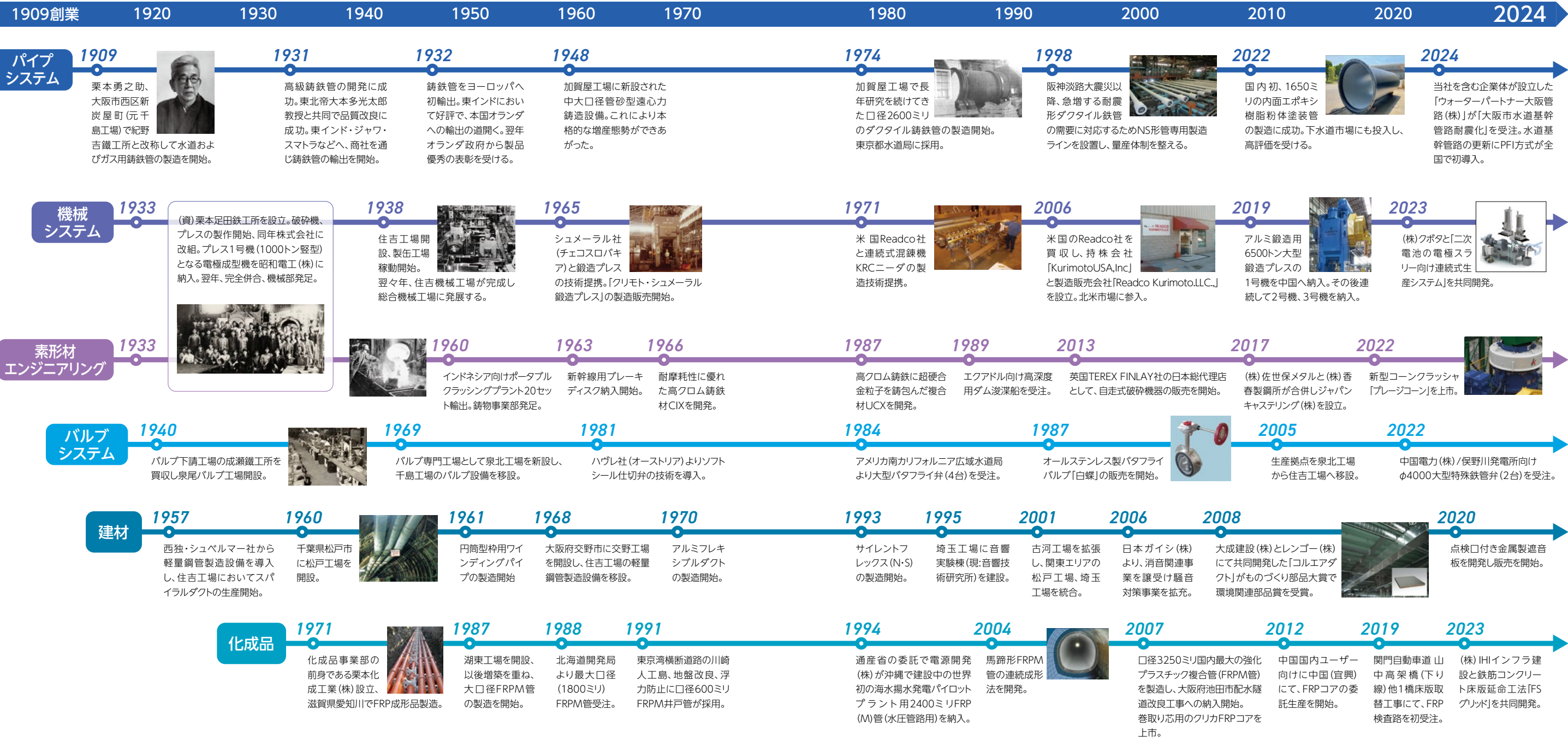
既存事業基盤の安定化と 境界線を越え反転攻勢へ

業績安定、棄損した財務基盤も回復し、新たな事業分野への投資や研究開発が可能になり、成長戦略を加速させていきます。

2016年には湖東工場内に、新材料領域CFRPの研究開発を加速すべく「クリモトコンポジットセンター」を開設しました。

今後も社会に貢献するため、さらに技術力向上に励んでいます。

事業の多角化



事業内容

産業設備

産業に、活力と、発展を。

優れた産業設備は、製品の品質向上や生産性アップにつながるだけでなく、モノづくりへの新たな活力を生み出します。クリモトは、100年を超える歴史のなかで培ったノウハウと独自開発の技術により多種多様な製品の生産プロセスの革新をサポート。モノづくりの可能性を極限まで追求し、また地球環境にも配慮するなど、トータルエンジニアリングで産業界の発展に貢献しています。



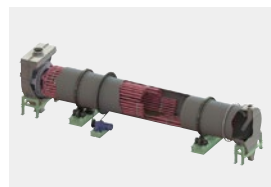
バタフライ弁

水力発電設備の水車入口弁・鉄管弁として、火力発電所の循環水管系統のポンプ吐出弁・連絡弁・復水器出入口弁などに使用されております。



FRP(M) 管、ダクタイル鉄管

水力発電所の管路として強度面、施工性の信頼が高く、多くの施設で使用されています。



間接加熱乾燥機

焼却燃焼ガス、その他工場排熱などの未利用エネルギーの利活用・エネルギーコストの低減をトータルでご提案します。



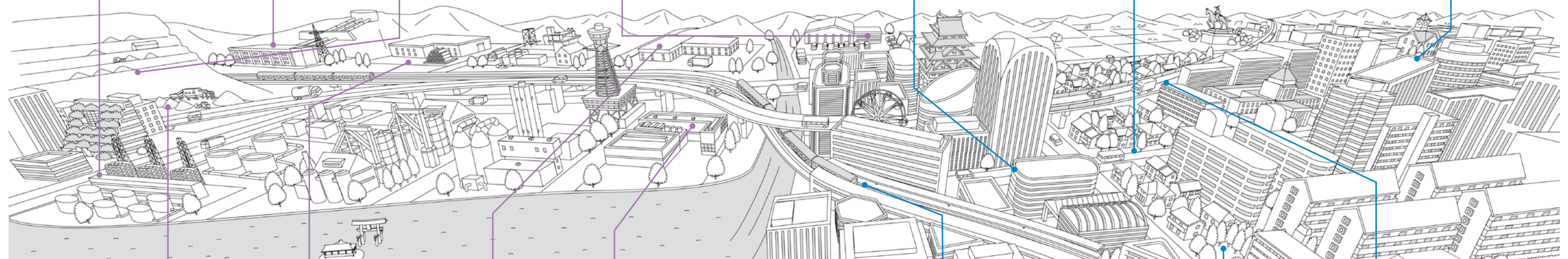
熱間・温間 鍛造プレス

自動車部品や建設機械の主要部品である鍛造部品の生産を独自の技術と保守サービスで支えています。

水力・火力発電所

資源・エネルギープラント

自動車部品製造工場



砕石場



自走式破砕機 (TEREX FINLAY)

優れた移動性と機器の組み合わせにより破砕現場の要望に柔軟に対応できる機械シリーズです。

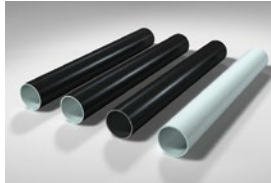
金属加工工場



ベンディングロール

薄板から厚板まで広い範囲にわたって高真円成形を実現する、トップロール水平移動式ベンディングロールです。

フィルム工場



FRP コア

テレビやパソコン、スマートフォンなどの液晶ディスプレイに組み込まれる光学フィルムの巻取芯として使用されています。

電子材・電池製造工場



粉砕機、焼成機、混練機

コンタミレスで材料の粒径調整・熱処理・混練をする機械です。連続処理を提案しており、住吉工場内テストセンターで性能確認が可能です。

社会インフラ

社会を、豊かに、安全に。

私たちの日々の生活を支えている、水、電気、ガス。これらライフラインをしっかりと整備し充実させることが、安心できる街や社会の基盤となり、豊かな暮らしの源となります。それはまさに、クリモトが創業時から自らの使命としてきたテーマ。人の衣食住に、産業の原動力に関わる大切な命綱だからこそ、確かな目と最先端の技術で、より豊かで安全な社会の基盤づくりに貢献しています。



PFP 管

高電圧電力ケーブルの地中埋設用の保護管として全国のお送配電網で使用されています。

送電網



ダクタイル鉄管

上水道や公共下水道などのパイプラインに使用され、水道管路の耐震化・長寿命化に貢献しています。



ソフトシール弁

水道水を安全・安定・安心して供給するための水道管路を構成するバルブとして広く使用されています。



FRP(M) 管

優れた施工性と耐食性、耐摩耗性を有し、電食・腐食がありません。耐震性にも優れ、不等沈下にも対応可能です。

上下水道・農業用水



スパイラルダクト

オフィスビルなどの空調用に使用されるダクトです。現場の条件に合わせた工場加工により施工性が向上し工期短縮に寄与します。

オフィスビル

鉄道



ブレーキディスク

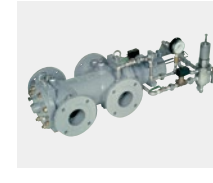
優れた性能により国内外の鉄道車両に広く採用されています。

緊急用貯水設備



貯水槽

災害時の管路破断による断水などの事態を想定し、確実に飲料水・防火用水を確保することを目的に使用されています。



緊急遮断弁

災害発生時に、いち早く作動し、貯水槽内の水の流出を防止し、災害時の飲料水、防火用水を確保することを目的に使用されています。

道路資材



透光型吸音パネル(ビューゾーン)

交通騒音の低減と景観や日照を得ることを両立でき、高速道路、一般道の環境向上に貢献しています。



主桁・床版一体型FRP検査路

軽量で耐食性に優れており、橋梁点検用の検査路として橋梁の長寿命化や維持管理効率の向上に貢献しています。

(製品一例)